

安藤 房子

相談者の中には、ときどき、妄想の強い人がいる。たとえば、「いつも、周囲から非難の目で見られているような気がして仕方がない」とか、「誰かに殺されそうな気がする」というような妄想である。このような人が増えているのは、今の世の中と無関係ではないと思う。

今や、電気街の歩行者天国を歩いたり、本屋でアルバイトをしている「普通の人が見も知らぬ人から殺されてしまう時代である。健康な心の状態の人でさえ、「いつ自分が殺されるかわからない」と考えてしまう。

私の住む街でも、つい先日、インターネットで犯罪予告の書き込みがあった。このときには、私の妄想もほとんど膨らんだものだ。娘の通う保育園は、区立小学校の空き室を利用した小さな園なのだが、ある日娘を迎えに行ったところ、玄関先にこんな掲示があった

のだ。

「おちゃんねるに、『午後三時に神奈川の小学校に行く、殺しマン』という書き込みがありました。一語一句までは覚えていないが、だいたいこんな内容。この書き込みを知った警察から小学校に通知があり、小学校から娘の園に通知があったのだという。

もちろん園は警戒し、その日は快晴だったにもかかわらず、窓を閉め切り鍵をかけ、室内で過ごした。幸い、犯

行は起きなかったが、この事件を通じて、少々気になる点があった。今回の「おちゃんねるへの書き込みは、神奈川県内のすべての小学校に通知されたと思っていたのだが、どうやら違ったらしい。県内在住の友人の中には「うちの学校にはなんの連絡もなかった」という人もいた。また、警察から小学校には連絡があったが、近隣住民への連絡が（少なくともわが家には）ないのも不思議だった。

近隣の不審者情報 みんなが知る権利

警察の配慮だったのかもしれないが、私はやはり、県内すべての小学校と近隣住民、犯罪予告のあった小学校にかかわる親たちにも知らせてほしかった。知ることで防げることは、意外とたくさんあるからだ。

実は、以前にも、警察に不信任を持つ出来事が

あった。

近隣の小学校に侵入者が入ったという噂を聞いたので警察に電話で問い合わせたのだが、警察は「不用意に近隣住民を不安にさせてはいけません、学校側のプライバシーもあるから教えられない」の一点張り。何度も食い下がりが、なんとかその小学校を聞くことができたのだが、そのとき警察は「電話番号を教えなさい。この情報は一切誰にも知らせないように」と、上から目線のタメ口。地域を守る人の話しぶりには到底思えなかったのだ。

人のプライバシーはもちろん大事だけど、不審者情報を私たちが知る権利はないのだろうか。

数年前にくらべ、世の中は不安な状態にある。たとえば、警察にメールアドレスを登録しておけば近隣の不審者情報を受け取れるような仕組みを作れないものだろうか。

こんなふうと考えてしまう私もまた、妄想者なのかもしれない。それでも私はかまわない。物騒な世の中なのだ。不安な情報を知ってはじめて、対応策が生まれる。周囲で危険な事件が起きているのを知らないまま、娘が殺されたりしたらたまらないのだ。

（恋愛カウンセラー作家 大江町出身）

毎月第一月曜日に掲載します

